

芦屋女短大 谷川 寿枝

1. 本研究はあまりにも繁雑な現代手芸に対する一つのレジスタンスとして人類の原始に遡り、その素朴な味を現代手法で再現し、われわれの心と、旧・中石器時代の人類を結びつけてみたものです。B.C 4万年のフランコ・カンタブリヤ美術よりレバント美術・タッシリ地方の文化、不思議にも現今に残るオーストラリヤ未開石器民族の作品等々を回想すれば、その狩猟生活の種々相の中に生まれた技術の大きさに驚くばかりです。

2. 試料は、オーリニヤック期よりマドレーヌ期にいたるフランコ・カンタブリヤ時代の洞窟・岩陰の壁画・彫刻と、象牙・石灰岩等の丸彫、レバント地方の影絵風壁画、アフリカ原始壁画、昨年北九州で発見された日本最古らしいといわれる線刻画、オーストラリヤ未開民族の作品等を参考とし、フランス刺繍・レザークラフト・木彫・布置刺繍等による若干の作品（衝立・額・ペンダント・丸盆・スツール他）を試みました。

3. 次のような成果をえました。

いまだ金属器をみぬ狩猟生活の中に、種の保存と獲物の豊饒を祈って生まれた諸作も、現代生活に組み入れてなかなか楽しいものであると感じました。私個人の手芸教育の上に果たしてどれほど効果が上がるかは未知数ですが、過飽和状態の現代に到達するまでのその歴史をひもとく一端となりえたと存じます。